

第5学年「体育」学習指導案

授業者 神谷 潤・江部紀美子

2月21日（土） 4階B室 10:00～10:40 （話し合い11:00～11:45）

1 単元名 性ってなんだ？

2 単元について

子どもたちは、特に疑うことなく＜女＞＜男＞であろうとする。否、もしかするとなっっているだけかもしれない。出生前のエコー写真に始まり、自分の身体的特徴、名前、性別記入欄、「男女」という呼び方。学校生活においても、性別で分かれて並ぶ、着替えのスペースを分ける、トイレなど当たり前のようにならで世の中には2つの性しかないかのように分けられる。友人関係においても＜同性＞でのかかりへと偏重する人が増えてきているが、一方で特に「性」を気にせずにかかわる人もいて、性自認とその曖昧さとの間にあるのが見て取れる。また、性自認以外でも生活に性認識の問題が垣間見えるのも事実である。例えば掃除をあまり積極的にしない人から「家では全て母がやってくれるので」という発言があった。このような反復によって子どもたちは自然と性と役割が決定づけられ、行為に現れてくるとも言えるだろう。しかし、こうした性決定や性の概念、役割に「正しさ」はない。「問題は身体だ」と述べる人がいるように、身体的特徴によって生きづらさを抱えている人も世界には大勢いるし、＜女性＞＜男性＞であるが故に生きづらさを感じている人もいることは自明であるにもかかわらず、なかなかそれらの問題は解消に至らないのが現状である。

こうした性の問題は、学校においてはタブー視されることが多い。「性教育」というワードが現れるだけで触れてはいけないこと、話題にしてはいけないことという「規制線」が張られることすらある。しかし、小学校教育において性に関する内容を学ぶのは、理科における「体のつくり」の学習や体育における「体の発育・発達」をイメージしがちだが、道徳や特別活動、その他の学習においても取り組むことは可能である。性の問題とは生きることそのものであり、領域にとらわれることなく学ぶことが求められる。つまり、本単元は体育である必要はないのかもしれない。よって、本単元は子どもの実態から現時点で取り組むことが求められると考えて設定した単元である。

子どもたちは、昨年度に理科や体育での学習は経験してきているものの、性の問題として取り上げるのは初めてである。そこで、まずは問題意識を持つために『ジェンダーもやもや発見カード』を使ってジェンダーの問題に注目することから対話をスタートさせる。このカードにはさまざまなジェンダーに関する話題が示されており、カードに触れながら話し合うことで、子ども一人一人にとって経験の違いや関心を持つポイントの異なりが顕になるだろう。それを出し合い、自他の関心に触れて議論することによって、ジェンダーがきっかけではあるものの、性の問題に幅広く触れ、考える機会としたい。ただし、あくまでもジェンダーに関する話題は導入にすぎない。そのまま子どもたちの問いがジェンダーについて突き詰めていくことになるか、それともセクシュアリティやその他の問題に発展していくのかについては、子どもたちの関心に寄り添って進めていく予定である。子ども一人一人が自身のこと、他者のこと、世界のこと、生きることとして考えを巡らせ、自身の考えを問うことにつながることを願う。

3 学習指導計画（2時間目／全5時間）

1	2	5
オリエンテーション 性に関する理解を拡張する。	「ジェンダーもやもや発見カード」から考えたい話題を選び、問いを立て、互いの考えを聴きあう。	

4 本時の学習について

（1）本時のねらい

選んだ問いについて互いの考えを聴きあい、「性」の概念や自身の価値観と向き合う。

（2）予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
『ジェンダーもやもや発見カード』を振り返り、グループで決めた話題について話し合う。 - あるグループの話題について全体で話し合う。 - 話し合いを受けて、自分が考えたことを振り返る。	- 自分たちのグループの話題について考えを聴きあい、問いを出し合っている。全員での対話の際に話したことは、次時以降のグループの対話の際に継続して振り返るようにする。 - 全員での対話ではできる限り色々な人の意見を聴きあうことを重視する。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

子どもたちの姿をもとに、小学校教育における性の学習（性教育）の可能性について考えたい。